

第45回医療研究全国集会 IN 長野

＝患者・施設利用者の給食改善（治療食・介護食の充実めざして）＝

医療需要は、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2025年にピークを迎え、介護需要は、さらに2030年まで増大していくことが予想されています。一方で、生産年齢人口は減少し、増え続ける需要に対する十分な人材を確保することが今まで以上に難しくなってくるのが想定され、早急に給食業務の安定した運営のための対策を講じる必要があります。

しかし、私たちの置かれている現状は年々厳しさを増しこの間の、医療・介護・福祉の改悪は、給食部門にとって影響が大きく、更なる改善を進めていく上で大きな困難となっています。そして今、自己負担がさらに拡大されようとしています。このことは、自己負担の増大にとどまらず、病院・施設給食の提供を金の有る無で区別し、更なる困難の拡大に追い込むことは明らかな現実です。この様な情勢を打ち破っていく為にも、情勢をしっかりと学び、改悪を許さないたたかいへの積極的な参加と、新たな給食改善への挑戦が重要となります。

給食の質を確保（担保）するのは、調理師・栄養士の努力と日々研鑽した技術です。また、介護施設や医療機関においても、高齢者の栄養確保や食べ難さ克服への新たな食事形態としての介護食や嚥下訓練食、チーム医療としてのNST等の取り組みの広がりには目を見張るものがあります。医療・介護・福祉スタッフとして、それぞれの技術を謙虚に認め高めあうことによって、より良い給食の提供ができます。私たちが提供している給食が、それぞれの施設にとっての特徴となり、それぞれの施設の持ち味となって表現されています。そのような現場の経験を真摯に受け止め交流をしませんか。地道に努力を積み重ねた結果が実を結んだこと、そして、仲間が、労働組合が大きく後押ししてくれたこと、そのことに確信を持った各スタッフの団結と励ましによって実を結んだ成果が医療研にあります。是非、給食の分科会へレポートをお寄せください。日常の工夫や経験をまとめるだけでいいのです。多くの報告を中心に分科会を運営したいと思います。給食現場から一人でも多くの仲間の参加を呼びかけます。

助言者 染原 剛（大阪府医労連）

運営委員 鮫島 彰（神奈川県医労連）
二階 司（兵庫県医労連）
鶴淵 弘之（東京都医労連）